

2021 年度上期 WEB 決算説明会（2022 年 2 月 15 日開催）**およびアナリストミーティングの主な質疑応答****【上期実績・通期予想】****1. 年間受注高見込を 2,300 億円から 2,450 億円に見直したが、上期受注高実績 1,446 億円に対して、下期受注高見込みは 1,004 億円となり、上期比で 400 億円減少する理由は？**

A: FPD 案件において約 200 億円が下期から上期に受注前倒しとなった影響が大きい。通期受注高としては当初（昨年 8 月）より 150 億円の増加を見込んでおり、全品目で前年度を上回る見込み。来期以降も、半導体・電子を中心に投資拡大が継続すると見込んでいる。

2. 上期の売上高・営業利益が計画比で上振れたにもかかわらず、通期予想を上方修正しない理由は？

A: 上期は部品長納期化の影響があったものの、受注高増加により売上高が計画比増加し、営業利益も計画を上回った。足下では部品長納期化が更に厳しい状況にあり、下期はその影響をより受ける可能性があるため、売上高は上期と同程度にとどまると見込んでいる。

3. 2Q は上場来最高水準の売上総利益率 32.4%ということだが、実力値と考えていいか？主にどの事業が改善したのか？製品ミックスによる影響はあるのか？

A: 2Q の売上総利益率の改善は、モノづくり力強化の成果が着実に出てきたもの。主に半導体・電子、FPD などモノづくり力強化の取組みにより、設計段階から売上総利益率改善に取組んだ製品群が増えてきたことなどにより徐々に成果が出てきた。2Q については製品ミックスの影響は少ない。下期もモノづくり力強化の取組みを継続し、更に売上総利益率は改善すると見込んでいる。

4. 上期の FPD および半導体電子部品の受注高・売上高の用途別内訳は？

A: 別紙のとおり。

5. 上期の営業利益率順位は？

A: 別紙のとおり。

【来年度見通し】**6. 来年度以降の売上高・利益（率）は今期以上に成長するのか？**

A: 来年度計画については、8 月に開示するので現段階でお話しできることはないが、半導体・電子を中心に設備投資が活発化しており、更なる成長を見込めると考えている。

利益率についても、引き続きモノづくり力強化による改善に取組み、来年度の利益率の目標達成に取り組んでいく。

【半導体・電子 受注動向】

7. ロジック・メモリ関連は市場の成長と同じように成長しているのか？今後のロジック・メモリの成長をどのように見込んでいるのか？昨年8月の設備投資動向の認識と変化はあるか？

A: ロジックについては、参入したメタル・ハード・マスク（MHM）工程が最先端の EUV において必須工程であることから、ロジック市場投資の伸びを上回る成長が期待できる。MHM の高評価から他工程でのビジネスチャンスも広がりつつあり、上期は前年同期比 1.9 倍、通期では 2.2 倍を見込んでいる。メモリについては、当面は市場の伸び並みの成長を見込んでおり、上期は 1.6 倍、通期では 1.3 倍を見込んでいる。
昨年 8 月時点の認識と特に大きな認識の差異は無いが、半導体メーカーの投資意欲はより強まっていると認識している。

8. 電子部品の受注高はどの用途・地域が伸びたのか？

A: 電子部品関連の用途では、パワーデバイス、通信デバイス、センサー等中心に増加している。特にパワーデバイスの上期受注高は前年同期比で 1.4 倍となり、通期においても前年同期比 1.5 倍を見込んでいる。地域では中国での投資が活況で上期受注高は前年同期比 2.4 倍、通期においても前年同期比 2.5 倍を見込んでいる。

9. パワーデバイスに期待している。日本・中国での投資動向はどのような状況か？今後も伸びるか？

A: 日本は IGBT 向け裏面電極用スパッタリング装置が中心に高いシェアを有しており、中国は SiC 用イオン注入装置中心で中国において 7 割以上の高いシェアを有している。グリーンエネルギー化・EV 化進展に伴い、パワーデバイス投資は非常に活発である。また、低電圧・低電流用では中国の Si-MOSFET 向け現地生産蒸着装置が好調で、パワーデバイスが電子部品関連ビジネスの成長エンジンになっている。

10. 中国では製造装置も国産化（バイチャイナ）を目指していると聞が、中国の国産製造装置メーカーとの競合はどのような状況か？

A: 汎用的なデバイス製造装置は、中国装置メーカーがシェアを伸ばしているが、最先端デバイスの開発・製造に取り組む中国デバイスメーカーも多く、日系電子部品メーカーとの取引実績があるアルバックから購入したいとの要望は多い。装置性能面では中国メーカーとの差は大きく、足元における競争という観点では影響は軽微である。中国装置メーカーの脅威に対しては、現在ビジネスをしている企業との量産開発や生産性向上を確りとサポートすること、絶えず差別化を図り、最先端の技術開発に取り組むことで、中国マーケットにおけるポジションを確保していく。

【FPD 受注動向】

11. LCD のパネル価格が下落しており、また巣ごもり需要も一服感がある中、なぜ LCD 投資が続いているのか？

A: 韓国メーカーが LCD 工場閉鎖方針を打ち出し先々の需給バランス緩和が見込まれること、TV サイズのトレンドが大型化に向かっていることの 2 点から、面積ベースでは生産キャパシティ不足が見込まれ、この不足を埋めるべく、中国・台湾メーカーが生産能力増強投資している。また、タブレットや PC など IT パネルの高精細化・広視野角化などへの対応ニーズもあり、LCD 関連の投資は高水準で継続している。

12. 大型 OLED 基板向け投資の取り組み状況は？いつから投資が見込めるのか？

A: モバイルに加えてタブレットや PC、医療用・車載用・ゲーム用など IT パネルなどでも OLED パネルへのシフトのニーズが高まっており、効率的な面取りができるよう大型基板の OLED の量産開発に取り組む動きが強まっている。特に政府支援を受けた中国パネルメーカーが G10.5 大型基板の LCD 工場を続けて立ち上げたことから、これまでディスプレイ業界を牽引してきた韓国メーカーが LCD パネル生産からの撤退方針を表明し、OLED シフトによる差別化を図ろうとしており、一方の中国の大手パネルメーカーも最先端 OLED への取り組みを強化していることから、OLED の大型基板化への関心が高まっている。来期以降の投資に期待している。

13. バッテリービジネスに期待しているが、何時ごろ期待できると考えているのか？

A: EV バッテリーの小型大容量化・安全性向上に向けた巻取式蒸着装置を開発しており、次期中期経営計画にあたる 23 年度以降、受注高・売上高に寄与すると見込んでいる。

【部材調達関連】

14. 部材長納期化により装置のリードタイムはどの程度伸びているのか？

A: 例えば半導体・電子では、装置によっても異なるが、部材の長納期化に伴い、既に様々な対応により 4~7 か月程度に押さえ込んでいたリードタイムが、足元では 10~12 か月程度になってきている。客先・サプライヤと常に納期の確認・交渉を行い、影響の最小化に努めている。

15. どのような部材が部材長納期化で不足しているのか？どのような対策を取っているのか？

A: 半導体や樹脂関連の不足から主にコントローラー、サーボモータ、コネクタ、LM ガイド、ボールねじやバルブなどが長納期化するとともに、部品製作サプライヤも需給逼迫で全般的に長納期化している。また、AL・Cu など材料も長納期化している。

対策として、部品・材料の先行・原材料手配、標準 UNIT の仕込み生産などにより早期の部材確保に取り組むこと、各メーカーとの定期的な打合せにより、必要納期に近づける様に協力頂いていることに加え、海外グループ会社と連携しグローバルに部品確保の取組を実施している。また、サプライヤや一部の顧客とも入手困難な部品情報を共有し、お互いに協力しあい部品確保の取組も実施している。

【中期経営計画】

16. 中期経営計画のモノづくり力強化は FPD 中心に進んだのか？半導体・電子はどうか？今後の改善余地は？

A: モノづくり力強化については、FPD で改善が進んでいることに加え、半導体・電子でも改善し、今回の売上総利益率に結びついた。設計段階からの改善が、調達・製造工程の改善につながりはじめている。モノづくり力強化の活動をさらにグループ各社に浸透させることによって、これからも利益率改善を進めていく。

以上

品目別実績 内訳割合・営業利益率順位

●受注高 品目別の内訳割合

受注高	FY2021 上期
半導体電子（億円）	390
・メモリ	3割強
・ロジック	1割半ば
・電子部品	3割弱
・パワー半導体	2割弱
・実装	一桁台半ば
・その他	数%
FPD（億円）	559
・LCD	5割弱
（大型向け割合）	（ほぼ大型向け）
・OLED	4割半ば
・その他	1割弱

●売上高 品目別の内訳割合

売上高	FY2021 上期
半導体電子（億円）	348
・メモリ	3割強
・ロジック	1割強
・電子部品	3割強
・パワー半導体	2割弱
・実装	一桁台半ば
・その他	数%
FPD（億円）	302
・LCD	3割半ば
（大型向け割合）	（大型向け6割半ば）
・OLED	6割弱
・その他	一桁台半ば

●営業利益率順位 FY2021 上期実績

順位	品目
1	コンポーネント
2	半導体電子
3	その他
4	一般産業
5	FPD
6	材料

全社平均利益率は
 4) 一般産業と
 5) FPDとの間